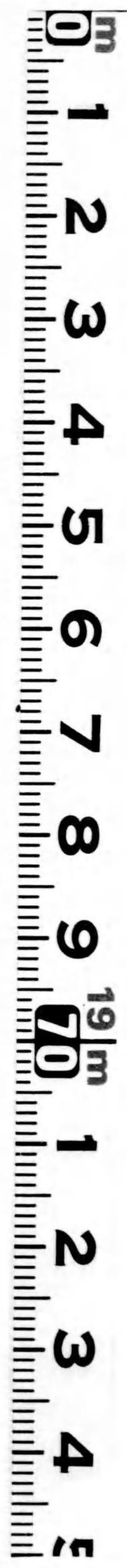
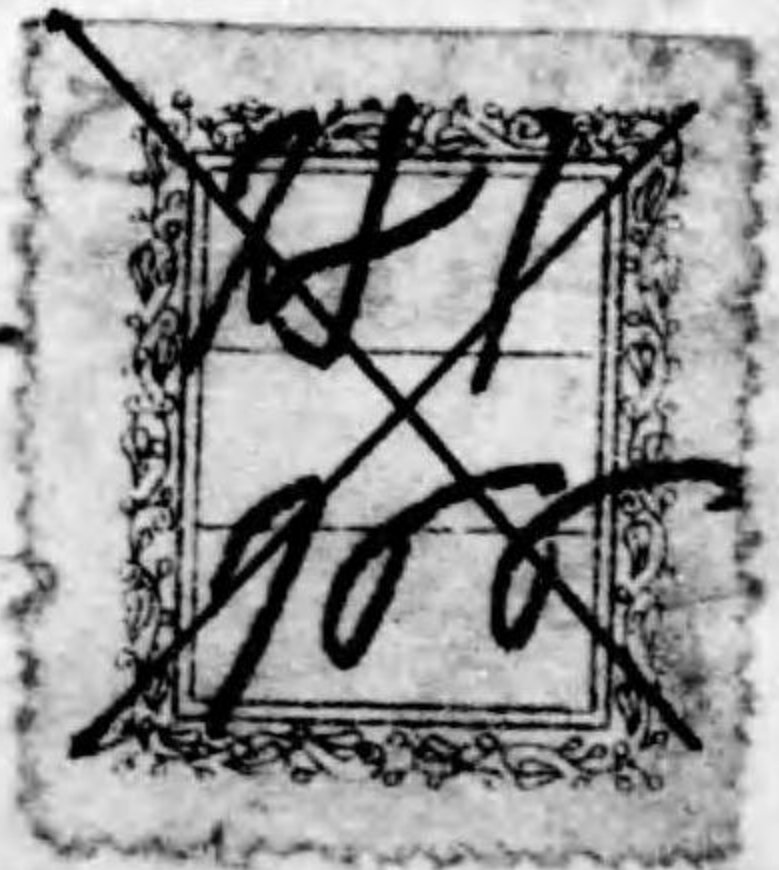


特 100
245

横濱市の動力問題に就て

中庸會調查



始



横濱市ニ於ケル動力問題

目次

一、縣下電氣需給状態……………	一頁
二、横濱市ノ需要激增……………	六頁
三、横濱市内ノ需給状態……………	八頁
四、電力料金比較……………	二頁
五、縣下ニ於ケル水電餘力……………	一七頁
六、道志川水電問題……………	二三頁

本 調 査 要 領

- (一) 縣下ノ電力供給ハ不足ナルニ拘ハラス
- (二) 横濱市内ノ需要ハ逐年激増ス
- (三) 横濱市内ニテハ他府縣ヨリノ供給ヲ仰キ且亦一部高價ナル火力電氣ヲ使用シツ、アル爲メ
- (四) 本市ノ電力料金ハ甚シク高價ナルヲ免レス
- (五) 電力ノ供給ヲ豊富ニシ料金ヲ遞減セシムルニハ即チ水力電氣ヲ起スノ外ニ途ナキヲ信ス
- (六) 道志川發電問題ハ之カ當面ノ急務トシテ研究サル

一、縣下ノ電氣需給狀態

縣下ノ電力需給ノ狀態ハ近時需要甚シク増加シタルニ對シ供給之ニ伴ハス所謂自給自足ノ程度ヲ越シテ他府縣下ヨリスル送電ヲ以テ補給シ辛フシテ其ノ需給關係ヲ維持シ居レリ抑々本縣ニ於テ電氣事業ノ始メテ計劃セラレタルハ明治二十三年ニシテ在留外人ノ一部ト市民有力者トノ合同ニテ同十月横濱共同電燈會社(社長高島嘉右衛門技師長岩田武夫氏)創立セラレタルヲ以テ濫觴ナリトス爾來文化ノ進歩ト事業界ノ進運ニ伴ヒ電氣事業ハ益發展シ殊ニ歐洲戰亂ノ時局ニ際シテハ其ノ進歩極メテ著シク一時郡部ニ於テハ無數ノ群小企業家現ハレタルモ其ノ後漸次他府縣ノ大企業ノ下ニ合同統一セラル、ニ至レリ現ニ發電能力ヲ有シ縣下ニ供給スル主ナル電氣事業者竝ニ電力ヲ擧クレハ左ノ如シ

事業者名

發電所位置
又ハ河川名
火力、水
別
發電力
キロワ
常用豫
備ノ別

摘要

東京電燈株式會社	塔ノ澤	水力	三、三〇〇	常用	
同(横濱電氣合併)	東神奈川	火力	二、〇〇〇	同	此ノ頃ハ晝間ハ約一、五〇〇キロワ夕刻ハ五、〇〇〇キロワ發生シ夜中ハ休止ス
同	同	同	三、八五〇	豫備	
同	横須賀	同	一、七〇〇	同	
同	江ノ島	同	七五	同	
同	同	水力	六、〇〇〇	常用	東京方面ヨリ送電小安變電所ニテ發電六、〇〇〇「キロワ」東京電燈へ送電
富士瓦斯紡績株式會社	同	同	一八、二五〇	同	
同	同	火力	二、〇〇〇	豫備	
同	同	水力	六、〇〇〇	常用	京濱電鐵及日本鋼管へ送電
桂川電力株式會社	同	水力	六、〇〇〇	常用	

愛川電氣株式會社	鹽川	水力	四五	常用	
相模電力株式會社	秋山川	水力	四二七	同	
東京灣埋立株式會社	同	水力	五、五〇〇	常用	平日ノ發電力ハ約三、〇六〇「キロワ」
京濱電氣鐵道株式會社	同	火力	二、五〇〇	豫備	
小田原電氣鐵道株式會社	同	水力	二、〇八七	常用	
富士水力電氣株式會社	同	同	六九五	同	
宮ノ下水力電氣株式會社	同	同	三三〇	同	

右ノ如ク縣下發電力ノ殆ント大部分ハ東京電燈株式會社、富士瓦斯紡績株式會社、富士水力電氣株式會社、宮ノ下水力電氣株式會社ニシテ他府縣ヨリ供給送電ノ主要ナルモノハ桂川電力株式會社及東京灣埋立株式會社ナリ此ノ他本縣下ニ於テ營業ヲ許可セラレ事業未開始ノモノニ關東水

力電氣株式會社（淺野總一郎）京濱電力株式會社（若尾幾造）群馬電力株式會社（安田善次郎）氏ノ三ツアリ愛川電氣ハ近ク四〇〇（キロワット）ヲ中津川ニ發電セントス以上是等ノ各事業者カ縣下ニ供給スル電力ノ總量ハ目下確實ナル統計ヲ知ルニ困難ナレトモ概計五萬七千「キロワット」ヨリ六萬貳千「キロワット」ノ間ニアリト信セラル其中横濱市内ニテ供給スル分、約參萬「キロワット」トスレハ其ノ畧ホ半ハ横濱市ニ於テ需要サル、モノト知ルヘシ尙本縣下ニ於テ要スル電力ノ内水力發電ニ依ルモノハ大正六年末ニ於テ貳萬九千七百「キロワット」ナルモ其ノ後増加シ現今ニテハ概算四萬參千「キロワット」内外ニシテ火力發電ハ極メテ特別ノ事情ヲ有スル一部分ニ限ラレ尙後モ低廉ナル水力發電ニ由ラムトスル趨勢アルハ否ムヘカラス

以上縣下ノ電燈電力事業ハ横濱電氣、富士瓦斯紡績ヲ除キ仲買事業者約十五、六社ノ併立ヲ見居レルカ是等ニ對シテ既ニ富士水電ハ曩キニ相甲電氣、津久井電氣、白瀧川水力等ヲ合併シタルヲ手初メニ著々合同ノ步ヲ進メ一方横濱電氣ニ對シテモ東京電燈亦過般買收ヲ行ヒタルヲ以テ將來縣下ノ電力事業ハ東京電燈富士瓦斯紡績、富士水電ノ三者ニ依ツテ鼎立ノ形トナルヘシ

二、横濱市ノ需要激増

横濱市ニ於ケル電力需要ノ状態ハ過般時局ノ經過ト共ニ急速ナル商工業ノ發展ト人口膨脹トニ刺戟サレ極メテ激増ヲ示シタリ先ツ大正九年末現在ニ於ケル市内電力装置ノ「キロワット」數ヲ大正三年ノ戦前ノ状態ト比較スルニ

大正三年	供給電力装置		自家用發電装置		計
	「キロワット」數	「キロワット」數	「キロワット」數	「キロワット」數	
大正三年	三、五六〇	ツトロ	二、三六七	ツトロ	五、九四七
大正九年	一三、二五〇	〃	三〇五	〃	一三、五五五

右ノ如ク戦前ノ需要全電力ハ五千九百四十七「キロワット」ニ過キサリシカ戦後ニ於テハ七千六百八「キロワット」ヲ増加シテ一萬二千五百五十五「キロワット」トナレリ更ニ市内取付電力箇數ノ戦前後比較ヲ觀ルニ

年	五燭	八燭	十燭	十六燭	其他	計					
三年	九六、九一五	筒	一	筒	六〇、八一九	筒	三九、五三七	筒	五、八五三	筒	二〇五、一三三
七年	八、九七三	筒	一、二六、三三二	筒	九、〇一七	筒	九六、四三七	筒	二四、三五二	筒	二五五、〇〇八
九年	一〇、三三四	筒	一、四五、五三六	筒	一〇、四五六	筒	一三三、七三三	筒	四五、八五三	筒	三四三、八九三

即チ戦前後ヲ通シテ十三萬八千七百七十燈ノ増加ヲ示シ市内如何ナル邊陲ノ地域ト雖モ其ノ燈火ヲ睹サルナキ景況トナリ凡ソ都市ノ外觀ニヨリテ其ノ文明ノ程度ヲ知ルノ標準トシテ都市密集ノ傾向愈々顯著ナラムトスル横濱市内ニ於ケル電氣需要ノ趨勢ハ向後益々激増ヲ極ムルコト殆ト議論ノ餘地ナキヲ證セリ

三、横濱市内ノ需給状態

横濱市内ニ於ケル電力供給ハ極メテ小數ノ例ヲ除クノ外横濱電氣合併後東京電燈會社營業ノ獨占ニ歸シ市内ノ電力需要ノ全部カ同會社ノ供給スル所ナリト稱シテモ不可ナラス現在同會社ノ發電容量ハ

發電所名	所在地	種別	發電容量
塔之澤發電所	足柄下郡湯本	水力	三、三〇〇「キロワット」常用
東神奈川發電所	横濱市神明町	火力	一、〇〇〇「キロワット」常用
同			三、八五〇「キロワット」豫備
横須賀發電所	横須賀市若松町	同	一、七〇〇「キロワット」豫備
江之島發電所	鎌倉村片瀬村	同	二、二五〇「キロワット」豫備

右發電容量ノ合計二萬七千七百七十五「キロワット」ノ中豫備トシテ實際ニ能力ヲ發揮セサルモノ五千七百七十五「キロワット」アリテ差引會社ノ發電力ハ塔之澤ニ於ケル水力三千三百「キロワット」及東神奈川ニ於ケル火力一萬一千「キロワット」合計一萬四千三百「キロワット」ナリトス而シテ今日ニ於テハ右ノ外東京ノ本社側ヨリ六千「キロワット」富士瓦斯紡績ヨリ六千「キロワット」都合合計一萬二千「キロワット」ノ電力ノ供給ヲ受クルカ故ニ東神奈川發電所ニ於テハ晝間僅カニ約千五百「キロワット」夕刻ニ於テ約五千「キロワット」ヲ發電スルノミニテ夜間ハ全然運轉ヲ休止スルノ状態ナリ是ニ依テ見ル時ハ横濱市内ニ於テ實際ニ要スル電力ハ夕刻ノ「ピーグ」時ニ於テ約二萬「キロワット」ト推定シテ大差ナカラン今同會社ノ市内供給ノ電力ヲ種別スレハ

○市内電燈用供給

六、四五二キロワット

(但三十一萬六百〇二燈分)

○工業用動力供給

一二、五〇八キロワット

○横濱電氣局へ電車運轉用動力供給

一、〇〇〇キロワット

合計

一九、九六〇キロワット

右ノ内燈用箇數ヲ大正三年當時ノ十八萬五千個大正七年ノ二十五萬五千箇ニ比スレハ甚タシキ増加ト謂フヘシ工業動力カ過去大正三年ノ市内工業動力三千五百五十九馬力(二千六百三十六キロワット)ニ比スレハ驚クヘキ増率ニシテ茲ニモ市内電力ノ激増ノ迹ヲ觀ルコトヲ得ヘシ

四、電力料金ノ比較

電力料金ハ供給潤澤ナラサル横濱市ニ於テハ比較的不廉ナラサルヲ得ス東京市ニ於ケル各社ノ料金ハ電量ノ多寡ニヨリ多少ノ差異アリト雖モ東京電燈、猪苗代水電、鬼怒川水電等約十八萬七千「キロワット」ノ豊富ナル供給事業者ヲ控フル所ニ於テハ勢ヒ料金ハ低廉ニシテ猪苗代水電ノ東京電燈ニ對スルモノハ定期一「キロワット」時一錢四厘及至一錢六厘王子電軌ノ如キ小口ニ對シテモ平均二錢八厘ニテ送電シ一部火力供給ヲナス鬼怒川スラ尙ホ三錢内外ニシテ需要ヲ求メ居レルカ横濱市ニ於テハ東京方面ヨリ送電補給ヲ受ケツ、アルト且亦東神奈川發電所ヲ運轉シテ相當ノ火力電氣ヲ使用スル關係上實際需要者ニ對スル料金ハ甚タ高價ナルヲ免レス平均シテ各都市ニ比シテ大體左ノ如キ高率ヲ示シ居

從量電力料「一キロワット時」

最低料金ヲ超過ノ分

晝 間 夜 間 晝 夜 間

東京	五錢—三錢五厘	七錢五厘—四錢
大阪	六錢七厘—六錢五厘	六錢七厘—六錢五厘
京都	四錢—三錢八厘	五錢—三錢八厘
名古屋	四錢	四錢
神戸	六錢—五錢四厘	六錢—五錢四厘
橫濱	月極制度	十二錢—三錢三厘

尙ホ電燈料金モ過般東京電燈ニ於テ改正ノ結果現在ニ於テハ比較的高率ナリ

月極電燈料各市比較

東京	(十燭)五〇錢	八燭	十六燭	二十四燭	五十燭
京都	五〇	六五	六五	六五	九五
大阪	五一	五五	(二十五燭)七五	七五	九三
名古屋	五〇	六五	八〇	一〇〇	一〇〇
橫濱	五三	七二	八八	一三五	一三五

即チ橫濱ハ東京ニ比シ十六燭光ニ於テ十七錢方二十四燭光ニテ二十三錢方五十燭光ニテ四十錢方ノ差異アリ

月極電力料(晝間)一馬力ニツキ

	一馬力	五馬力以上	十馬力以上	二十馬力以上
東京	六、五〇 <small>錢</small>	六、〇〇 <small>錢</small>	五、五〇 <small>錢</small>	五、二五 <small>錢</small>
京都	五、九五	四、九〇	四、五〇	四、一五
名古屋	七、五〇	七、〇〇	六、五〇	六、二五
横濱	一、〇〇	九、三五	以下メートル供給トス	

月極電力料(晝夜間)一馬力ニツキ

	一馬力	五馬力以上	十馬力以上	二十馬力以上
東京	一一、〇〇 <small>錢</small>	一〇、〇〇 <small>錢</small>	九、五〇 <small>錢</small>	九、〇〇 <small>錢</small>
京都	一一、九〇	九、八〇	九、〇〇	八、三〇
名古屋	一三、〇〇	一二、〇〇	一一、〇〇	一〇、五〇

横濱	一七、〇〇	一六、〇〇	一五、一〇	一四、二〇
----	-------	-------	-------	-------

右ニ依リテ見ルトキハ横濱市ノ月極電力料金ハ京都ニ比シ一馬力ニ付五圓以上高價ニシテ寧ロ驚クヘキ特種料額ト謂ハサルヘカラス横濱市ニ於ケル商工業カ如斯不廉ナル電力料金ノ下ニ於テハ到底活氣アル殷盛繁昌ヲ觀ルコトノ不可能ナルハ一目明カナル所ニシテ是レニ依ツテ觀ルモ横濱ニ於テ如何ニ工業振興ノ方策ヲ樹立スルト雖根本問題タル動力料金ノ不廉ニ對シテ何等ノ改善策ナキニ於テハ畢竟彼ノ所謂大横濱建設工業招致ノ大策ハ一種ノ矛盾撞着タル言ニ止マルノミ横濱市電氣局ニ於テハ東京電燈株式會社ヨリ使用電力壹千「キロワット」交流一「キロワット」時當リ三錢五厘ニテ供給ヲ受ケツ、アルニ反シ東京市電力カ鬼怒川水電ヨリ一「キロワット」時壹錢七厘ニテ供給サレ大正十一年ノ契約滿

期ト共ニ約二錢五厘トスルコトニ於テ略決定シ名古屋市電カ交流一「キロワツト」時一錢三厘、大阪市電カ交流一「キロワツト」時六厘ニテ供給セラルニ比シ横濱電車カ如何ニ高價ナル電カヲ使用シ居レルカヲ知ルヘシ

五、縣下ニ於ケル水電餘力

逐年激増スル電カノ需要ニ對シテハ益々電氣事業ノ發展ヲ圖ルヲ以テ緊要トス。炭價ノ高價ナル時ハ到底火力發電ヲ以テスルハ引合ハサルヲ以テ勢ヒ水力發電事業ヲ發展セシメサルヲ得ス水力電氣ハ火力ニ比シ約三分ノ一ノ投資ヲ以テ完成スルヲ以テ特ニ本縣ノ如キ比較的水利ノ使用範圍尠カラサル地ニ於テハ極力其發展ヲ促シ以テ縣下ノ自給自足ヲ圖ラサルヘカラス是レ他府縣ヨリ送電セラレル料金ヨリハ遙カニ低廉ニ使用セラレルコトヲ得ヘク從テ電カノ潤澤ト共ニ工業ノ發達期シテ待ツヘク横濱市ノ如キ此ノ點ニ於テハ有數ノ水利ヲ擁スル附近郡部ニ於テ特ニ水電企業ノ必要ヲ切實ニ感セシメラルナリ先年遞信省ガ臨時發電水力調査局ヲ設ケテ調査セシ本縣ノ水流發電カ調査ヲ列記センニ

○縣下發電水力調査(遞信省)

相模川水系水力地點

河川名	取入口	放水口	水量	落差	馬力數
相模川	神奈川縣津久井郡 湘南村大字小倉	同縣愛甲郡依知村 字上依知	五〇	九一	五九二〇
桂川	山梨縣南都留郡 山梨町字羽根子	同郡禾村川茂	一六〇	八七	一、五九四
同	神奈川縣津久井郡 名倉村大字名倉	同郡日連村字勝瀬	四六	八四	四、三三四
同	山梨縣南都留郡 忍野村字忍草	同郡明見村大字大 明見	七六	四〇五	三、四六〇
眞木川	山梨縣南都留郡 廣里村間野	同村大字眞木	一四	三五八	五六三
葛野川	山梨縣北都留郡 保村大字淺川落合	同村大字下和田	六	一八〇	五六六
鶴川	山梨縣北都留郡 原村大字山ノ神	同郡大鶴村大字六 倉黒澤	二九	一七六	五七三

河川名	取入口	放水口	水量	落差	馬力數
同	山梨縣北都留郡 西原村大字初戸	同郡桐原村大字大 垣外	一七	二六七	五二〇
秋山川	山梨縣南都留郡 山村大字古福土	神奈川縣津久井郡 名倉村大字芝畑	三	三九八	五三七
道志川	山梨縣南都留郡 志村大字河原畑	同村大字小善地	四七	三〇五	一、六一一
同	山梨縣南都留郡 志村小善地	神奈川縣津久井郡 牧野村大河原	八九	六〇七	六、〇七二
同	神奈川縣津久井郡 牧野村大字大河原	同村大字内郷村界	一三〇	三九一	五、二七四
同	山梨縣南都留郡 志村大字神地字中山	同村大字河原畑字 窪ノ前	二七	一三三	三七〇
酒勾川	水系水力地點				
川音川	神奈川縣足柄上郡 松田村大字虫澤	同村大字上茶屋	二	三八〇	五二二
早川	水系水力地點				
早川	神奈川縣足柄下郡 仙石原村大字逆川	同郡宮城野村大字 大畑澤	一九	二七三	五七三

同	神奈川縣足柄下郡	同郡同村同大字	三	二三	五七三
同	宮城野村大字大畑澤	同郡早川村垣山下	三	八二	七七
同	神奈川縣足柄下郡				
同	湯本村大字湯本				

而シテ本縣ニ於ケル水力電氣企業ニ就テハ最近ノ調査中ニ屬シ特許ニ至ラサルモノ百拾五件之カ發電總量約廿萬馬力、投資セントスル工費總額二千五百四十萬二千圓ニ達シ居レリ而シテ右ノ内ニハ同一箇所ニ於ケル競願モアリテ發電總量ノ約二割ヲ控除スルモ縣下將來ニ於ケル水力電氣ノ發電餘力ハ尙ホ十六萬餘馬力ヲ存スル勘定ナルナルカ出願書ニ依ル發電力算出計算ハ多ク杜撰ノ嫌ヒアレハ實際上拾萬馬力以上ノ發電餘力ハ疑ナク前記出願ノ企業者ニシテ全部事業ノ遂行ヲナスモノトスレハ本縣下ニ於ケル需要電力ハ自給シ得ルノミナラス之レヲ他府縣ニ供給スルヲ得可シ尙ホ其主要ナル使用河川其他詳細左ノ如シ

大正六七年出願ノモノ

河川名	發電力	投資額	件數
早 戸 川	一、五八七馬力	二五九、二〇二圓	二
中 津 川	一六、六一七	五、二〇七、七七一	七
白 絲 川	九八	四五、八三七	一
道 志 川	二四、一一二	四、〇八七、一九四	三
藤 木 川	九二五	一五〇、〇〇〇	一
酒 匂 川	一四、五八一	三、五〇四、九〇〇	一
早 川	七、七三四	二、三四一、三六一	九
相 模 川	一七、三七三	四、九八四、三五一	五
合 計	八三、〇二七	二〇、四八〇、六一五	三九

大正八年出願ノモノ

酒 匂 川	一一、九二一	馬力	二、三一三、五〇〇	圓	九	件
相 模 川	九、一五〇		六八五、五〇〇		二	
早 川	五、七六七		一、五五二、五〇〇		六	
川 村 用 水	二二五		二〇、六三〇		一	
合 計	二七、〇六三		四、九七二、一三〇		一八	

右ノ内最モ有望視モラレ居レルハ道志川水電計畫ニシテ次キニ相模川上流ニ於テ相模原開田事業ニ關聯シテ計畫セラレツ、アルモノニシテ後者ハ大正七年有吉知事ト元横濱電氣會社長木村利右衛門氏トノ間ニ了解アリ約一萬三千キロワットノ計畫發表ヲ見タリ

六、道志川水電問題

縣下ノ水電事業ハ尙未着手ノ分尠カラサルモ特ニ有望ト認メラル、モノハ道志川水電案ニシテ明治三十九年大倉久米馬氏外十七名明治四十三年岡田治衛武氏外二名大正元年富士瓦斯紡績會社大正二年佐藤政五郎、渡邊和太郎氏等外六名ノ計畫出願アリ現ニ横濱市ノ所謂市營案トシテ大正八年六月市會ニ提出可決サレ申請中ナリ

叙上ノ如ク道志川水電計畫ノ今日迄ノ出願者中比較的著實ナル計畫内容ヲ備ヘタルモノハ富士瓦斯紡績會社、佐藤政五郎、渡邊和太郎氏等外六名ノ出願ニシテ其ノ計畫内容ハ

富士瓦斯紡績案

津久井郡牧野村字大河原ニ於テ取入レ百二十間ノ開渠ト三千七百二十三間ノ隧道トニヨリ道志川左岸ニ沿ヒ牧野村牧馬ニ設クヘキ貯水池ニ導キ千百五十間ノ隧道水路ニヨリテ津久井郡内郷村大字寸澤嵐字新戸ニ出テ四百五十尺ノ落差ヲ利用シ三千六百「キロワット」ノ電力ヲ得更ニ貯水池ヲ利用シテ最大六千七百「キロワット」ノ電力ヲ得ントス

佐藤、渡邊氏案

山梨縣南都留郡道志村ニ堰堤ヲ築キ其ノ左岸ニ沿ヒ千六百間ノ暗渠二千三百間ノ開渠ヲ開キ之レニヨリ同村月夜野ニ導キ七百餘尺ノ落差ヲ利用シ約六千餘馬力ヲ得ントス

右兩案中前者ハ大正二年二月二十八日ノ市會ニ於テ後者ハ大正二年七月二十六

日ノ市會ニ於テ孰レモ横濱市水道水源地濁ノ理由ヲ以テ反對ニ遭ヒ遂ニ主務省ノ認可ヲ得ルニ至ラサリシモノニシテ今日市會自ラ市營案ノ認可ヲ求メツ、アルハ奇觀ナリ横濱市ノ所謂市營案ノ内容ハ大正八年六月市會ニ提出セラレタルモノ左ノ如シ

計畫ノ要領

本計畫ハ山梨縣南都留郡道志村ヨリ神奈川縣津久井郡牧野村ニ至ル區間道志川左岸ニ三箇所ノ水路ヲ開鑿シ理論馬力合計一萬五百九十五馬力即チ發電所出力合計五千九百「キロワット」ノ電力ヲ得約最長四十哩ヨリ最短二十七哩ノ線路ヲ以テ之ヲ横濱ニ送電セムトスルモノナリ計畫第一水路ニ於テ全然道志村地内ニ取入放水スルモノニシテ使用水量毎秒四十七立方尺第二水路ハ道志村ニ取入レ

牧野村地内ニ放水スルモノニシテ使用水量毎秒八十立方尺第三水路ハ牧野村地内ニ取入レ放水スルモノニシテ使用水量毎秒百十七立方尺トス

此計畫ハ第三水路ヲ第一期事業トシ第一、第二水路ハ第二期事業トシ第三水路ノ竣成後施行スルモノトシ第三水路工事ニ要スル資金貳百萬圓ニシテ全部公債ニ仰キ年六分五厘手取九拾五圓ト見込ミ工事ノ期間ヲ三箇年トシ第四年ニ於テハ第三水路ノ出力(十分ノ七)ヲ第五年以後ハ全力ヲ一「キロワット」時料金貳錢ニテ供給スルモノトシ其ノ收入ヨリ毎年ノ經費及積立金ヲ差引タル剩餘ヲ以テ元利ヲ償還スル計算ヲ行ヘリ而シテ据置期間ハ工事ノ期間ト收入ノ少キ第四年迄トシ此ノ期間中公債ノ利子及收支不足額ハ低利ニ市費又ハ低利資金ヲ年六分ノ利子ヲ以テ運用ジ此ノ利子ハ別途ニ支出シ其ノ運用ヲ受タル額ハ第五年後ニ

於テ收支ノ剩餘中ヨリ元利ヲ支出シ第二十四年ニ至リ定済シ公債ハ第五年ヨリ償還ヲ開始シ第三十一年ニ至リ二十七箇年間ニ完済スルコト、セリ

但シ變電出力ハ發電所出力ノ九十(パーセント)トシ一箇年ノ平均負荷率ヲ六十二、五(パーセント)ト見込ミ收支ヲ計上セリ(以上市會提案)

此ノ外縣營案ノ内容ハ未タ世上ニ發表セラレサルモ傳ヘ聞ク所ニ依レハ殆ント市營案ト大同小異ナリト謂ヘハ以上各案ヲ綜合シテ該水利ヲ利用スレハ尠クトモ五千「キロワット」ノ電力ヲ得ルコトハ強テ困難ニ非サルカ如シ

之ヲ要スルニ横濱市ニ於ケル電力問題ハ現在ノ供給不足料金不廉ノ點ニ於テ全ク行詰レルノ觀アリ今日ニ於テ之カ適當ナル改善解決策ヲ講セサルニ於テハ是ヲ根本問題トスル商工業ノ振興發展ヲ期スヘカラス殊ニ横濱市カ電鐵會社ヲ買

收シ自ラ市營電車ヲ經營シツ、アルニ於テハ其ノ動力ヲ他府縣ノ電氣事業者ヨリ供給サレ居ルカ如キ不便不自由ハ到底忍ビ能ハサル所ニシテ市内電燈ノ如キ殊ニ然リトス元來電力事業ノ如キハ鐵道通信事業ト共ニ事業中特異ノモノニ屬シ理想ヨリスレハ之ヲ一私營事業者ニ委スヘキ性質ノモノニ非セシテ寧ロ之ヲ國家事業トシテ統一スヘキ也

現在ノ如キ横濱市民ノ利益ヲ代表セサル事業者カ其ノ動力獨占ノ状態ニアルハ東京市ニ於ケルカ如ク同一事業者ノ併立セサル丈ケ弊害ヲ伴ヒ將來不安ヲ醸シ易キ原因トナルヘク尠クトモ此ノ種事業ハ自給ノ公營ト爲セシメサルヘカラス幸ニ本縣ハ水利ヲ利用スヘキ河川尠カラズ殊ニ道志川水電計畫ノ如キハ今ヨリ七年前ニ於テ市民ノ有力者中調査研究ノ結果其ノ發電計畫アリタル程ニシテ

先ツ其ノ第一着手トシテ市カ此處ニ市營水電ヲ起シテ自ラ企業開始ノ緊要缺クヘカラサルヲ認ムル所以也

Handwritten signature or stamp in a decorative frame, possibly reading 'L.H.' and 'J.C.'.

大正十一年三月 日印刷
大正十一年三月 日發行

(非賣品)

發行者 橋本清之助
橫濱市本牧町箕輪下三四三

電話長者町 三三三四番

印刷者 小宮義比
橫濱市青木鶴屋町三四九七

印刷所 木曾印刷株式會社
電話本局 一九一六番

終

